



# 県内主要産業の動向

2017年11・12月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	17年10月	17年11月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	生産は前年を下回る水準。飲食店向けは、新規出店が伸びず厳しい状況。ノベルティ向けは、大口先からの受注が一服。一方、消費者向けは、100円ショップからの受注が安定的に推移している。産地では、研磨職人の不足が顕在化しており、設備投資による内製化を図る動きがみられる。
金属 ハウスウェア	●	●	↗	受注は持ち直し基調。企業向けは、新年度のノベルティ需要を確保。厨房関連製品にも動きがみられる。消費者向けは、ギフト需要に加えて、アウトドア関連が増加。また、製品別では、中国のコーヒー需要の高まりを受けてコーヒー用のポットに動きがみられる。
作業工具	◐	◐	→	国内販売は、建築関連工具を中心に堅調。建設現場、各種製造工場でトルクレンチ類の需要が続いている。輸出は各業者間でばらつきがみられるものの、東南アジア向けが堅調。国内市場の成熟から海外指向は一層高まっている。人手不足の業者では受注面に影響が出始めている。
電子部品 ・デバイス	○	○	→	受注は増勢基調が続く。半導体関連では、半導体素材の受注が好調を維持。電子部品関連では、半導体製造装置向けが堅調に推移。携帯端末関連も高水準の受注が続く。自動車の運転支援システムや高機能家電など製品分野も広がってきており、先行きの受注に強気な見方が多い。
鋳物	○	○	→	受注は総じて好調を維持。環境規制を受けて中国企業の生産が滞り、国内産へのシフトがみられる。用途別では、産業機械・IT関連が堅調で受注は年度末までは安定している。そうした中、1月から原材料・副資材の再値上げが予定されており、収益性の悪化が懸念される。
金型	○	○	→	受注は総じて堅調を維持。建築金物は首都圏向け、自動車関連は国内・海外を問わず好調で、最生産期の暖房機器は前年並みの水準を確保している。新規の商談は増えているが、人員不足、短納期、価格面の隔たりなどで不調に終わるケースもみられる。
一般機械	○	○	↗	自動車関連、航空機関連は国内外を問わず活況。さらに外需については、中国や北米向けの半導体製造装置が底堅く推移している。好調な企業業績を背景に、省力化や生産性向上を目的とする工場の自動化が進んでおり、今後も総じて増勢基調が継続する見通し。



業種	景況			コメント
	17年10月	17年11月	先行き	
絹織物	●	●	→	生産は総じて低調。十日町産地は、催事の集客が例年並みに留まるなど盛り上がりには欠ける。また、各工程で職人が不足しており、生産能力の維持に苦慮する先も多い。五泉産地は、十日町と同様に厳しい状況が続くが、一部で、絹の肌触りを活かしたストールをギフト向けに販促する動きもみられる。
合織織物	●	●	→	春物生産期。受注は継続的にあるが、小ロット・短納期が多く生産に労力を要している。また、織物加工業者の廃業から、一部に受注を断念するケースもみられる。そうした中、栃尾産地では東京で開かれた国内最大の繊維見本市に10社が出展、産地のPRに努めた。
ニット	●	●	→	秋冬物が終了し春物生産期入り。春物受注は、アパレル側の慎重姿勢により盛り上がりを欠く中、セール用秋冬物の追加受注が入り、短納期の対応で苦慮した。そうした中、五泉・見附のブランドPRにより展示会等も賑わいをみせ、国産ニットへの関心の高まりに両産地とも手応えを感じている。
木工家具	●	●	→	業務用は、店舗関連の受注は少なく、商業施設などの年末商戦向け受注にも動きはみられず。資材は物不足から値上げが見込まれ、採算面の懸念材料に。家庭用は、受注難から事業規模維持に苦慮する状況が続く。大型家具需要が弱いいため、家具のリフォームにより顧客取り込みを図る業者も。
清酒	●	●	→	11月の出荷量は、全体では前年並みであったが、県外向けがやや不振。酒類別では、吟醸酒が好調であった一方、本醸造酒・普通酒が伸び悩んだ。足下では、12月の最需要期に入り、例年よりも年末年始の宴会需要に動きがみられており、出荷拡大に期待する声が多い。
米菓	◐	◐	→	11月の売上は前年を下回った。消費者の低価格志向の強まりから定番品が伸び悩んだ。足下でも、引き続き弱含みで推移。一部では、最需要期を前に水稻新品種米「新之助」を使用した商品を発売し需要を喚起。そうした中、段ボールなどの資材価格が上昇しており、今後の懸念材料に。
建設	◐	◐	→	公共工事は、国、県の発注増を受けて持ち直し基調。県は土木部と教育庁発注の工事が増加している。民間工事は、小売店の新設などに動きがあるものの、大型工事は少ない。住宅建設は、相続税対策の一巡を受けて貸家が落ち込み、持家も盛り上がりには欠ける動きが続いている。
大型小売店	◐	◐	→	11月の売上は前年を上回った。気温低下や降雪で長靴などの冬物商品が好調だった。また、短期バーゲンにより衣料品も伸びた。足下では、食品や高額品などにも動き。一方、お歳暮商戦は前年割れの見込み。家電量販店では白物・黒物家電が前年並みのほか、石油ヒーターなどが堅調推移。